

ダイコンのキスジノミハムシに対する2種粒剤の併用による散布回数削減

施薬機を搭載した播種同時穴開シーダマルチャにより、播種時にプリロツソ粒剤とフォース粒剤を併用することで、被害が軽減

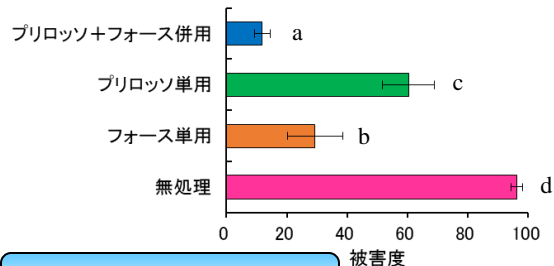
背景・目的

- ・ダイコンのキスジノミハムシは幼虫が根部の表面を食害し、商品性が著しく低下
- ・成虫が土中で産卵し、幼虫は土中で成育することから防除が困難
- ・本種は栽培期間中、発生を繰り返すため、播種時の粒剤処理と生育期に2～4回の防除が必要

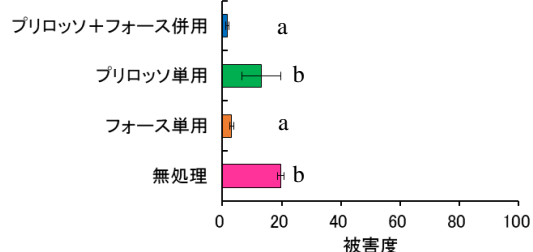
成果の内容

9月播種(地上部1回散布)

異なる英文字間には有意
(Steel-Dwass検定, $p < 0.01$)



10月播種(地上部散布なし)



・播種時に、プリロツソ粒剤を深さ約5cm、フォース粒剤を地表面に軽く攪拌しながら処理

・播種、施薬、マルチ、穴開け一貫作業機で処理

・発生が多い9月は1回の散布でも被害が軽減

・発生が少なくなる10月は散布なしでも被害が軽減

導入メリット

9月は種(無処理)



9月は種(粒剤併用+1回散布)



散布回数削減による
労力減

被害軽減による商品価値の向上

普及対象・範囲
ダイコン生産者

期待される効果

散布回数削減による省力化に寄与

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場 環境研究室・農機研究室

(次世代型農業機械による高度作業技術開発)